

農地の荒廃が少ないのが特徴となっている。

千葉県安房郡東部の地形と土地利用

岡野原 初 瀬

I 序 論

第1章 房総半島に於ける調査地域の概観

第1節 自然概観

第2節 人文概観

II 本 論

第1章 地 形

第1節 地形の概観

第2節 地質的特徴

第3節 地形分類

第4節 地 じり地形

第2章 農 業

第1節 農業地域

A 統計による農業地域区分

B 各農業地域の特色

(1) 花卉+(水稻)地帯

a 花卉栽培

花卉栽培の現状

高等園芸と露地栽培

花卉部門と酪農部門の結びつき

b 漁業と農業の関連

(2) 酪農+水稻+(その他)地帯

(3) 水稻+(酪農)地帯

(4) 水稻+酪農地帯

注:()は従作物

地 じり土地利用

地 じり地に於ける集落立地

第2節 地形、土地利用を考慮した農業地域区分

補節 花卉栽培および酪農の歴史と現状

a 花卉栽培

b 酪農

Ⅲ む す び

本論で中心は地形区分と統計を利用した農業地域区分である。この2つの作業を通して、この地域の地域性をとらえることを目的とした。わずか2つの町が詳しく農業地域区分ができたのは、この地域が海岸地帯から山間地帯までの農業を含んでいるからである。すなわち地形の単位がこまかく、気温の地域差、地形の地域差がそれぞれ微妙に異なり、それに交通の便利さ、歴史等が加わり、かくも種々な作物が栽培され家畜が飼養されている。恵まれた自然条件、京浜に近いという地理的有利性によってはやくから商品作物が導入されそれが各農家にゆきわたっているという点では西日本の農業地域であるといえる。地理的位置は房総半島の南東端にあり、都市の影響も直接には及んでこない。日本の一般の地方と同様に都市に人口が流出し、人口の減少がみられるが、農業に於ては、主要労働力が残っており、兼業に出る場合もこの地域内で働いている。明治、大正、昭和と時を経て徐々に変化し先進的な農業地帯となったが現在においては停滞的であり近郊農村のような急激な変化がないのもこの地域が半島の先端近くに位置し、都市とある程度隔離しているからである。

黒部川扇状地の地理学的考察

— 黒部川右岸地域に関して —

鍛 治 良 子

調査地域は、富山県の東部に位置し、水稲単作地帯となっている。郷里であること、農業に興味を持っていたことにより、本地域を選んだのであるが、調査は、特に農業に関して、他の地域との比較、本地域での相違と最近の変化を捕えることを目的とした。

第一章で、自然・人文両面から、地域を概説し、第二章で、空中写真、地形図・ボーリングにより分類した地形についての細説、第三章で、本地域の農業を土地利用と経営面から考察し、第四章でまとめとした。

本地形は、大きく高位台地・低位台地・現扇状地の3つに分けられる。台地はいずれも、かなり開析された隆起扇状地であるが、高度の高い面程、傾斜が急である。高位台地では、第三紀層を不